

死刑制度 井戸端会議
 とかく重くなりがちな「死刑」
 について、ワチャワチャと言っ
 たり、聞いたり。出入り自由
 なカフェ型で開催しています。
 日時：本日（17日）17：30～
 次回：11月21日（土）
 場所：足立区勤労福祉会館
 TEL：03-3838-3581

処刑場から生き帰った人、ドストエフスキーが感じた真実 死刑について考えてみませんか

東京都荒川区南千住 一五九一六三〇二
<https://sobanokai.hamamizake.com/>

東京拘置所のそばで死刑について考える会「そばの会」

ただ二本の足を載せるしかでき
 ない狭い場所で生きなければな
 らなくなったとしても

（中略）

それでも今すぐ死ぬよりは、そ
 うしてでも生きている方がまだ
 ましだ！

生きて、生きて、ただ生きてい
 られさえすれば！

たとえどんな生き方でも、ただ

生きていられさえ

すればいい！

なんとという真実だ！

（『罪と罰』）



ドストエフスキー

殺された被害者遺族が被害者に
 死刑を望む気持ちも理解できる
 し無視はできません、これは
 自然のものであるし、これはあ
 る意味公平ではあるのです。

法による正義、秩序優先、
 被害者遺族の処罰意識などを基
 に死刑は行われますが、死なな
 ければならない人の心情と体を
 どの程度考えているのか疑問は
 あります。

また私たち市民も死刑囚がどう
 生きどう死んでいったのかにつ
 いては無関心です。

死刑が稀になった今、死刑の是非
 を巡る議論には正義の主張だ
 けでなく「ただ生きていられさ
 えすればいい」という人間の
 生存本能への配慮が必要です。

大きな脳を持った人は死にたく
 ない生物です。死刑囚も大きな
 脳を持った人です。（H・I）

政治犯として処刑寸前に皇帝の
 恩赦で死刑を免れたドストエフ
 スキーの言葉です。
 殺人事件の加害者は人を殺して
 いるところは、政治犯のドスト
 エフスキーとは違いますが処刑
 される身であるのは同じです。
 殺人事件の被害者も殺されるま
 でに時間があれば、同じように
 「ただ生きていられさえすれば
 いい」と考えたと思います。